第2回 日吉津村議会定例会会議録（第2日）

令和6年6月5日（水曜日）

議事日程（第2号）

令和6年6月5日 午前9時開議

- 日程第1 承認第1号 専決処分の承認を求めることについて（日吉津村税条例の一部を改正する条例）
- 日程第2 承認第2号 専決処分の承認を求めることについて（日吉津村国民健康保険税条例の一部を改正する条例）
- 日程第3 議案第22号 日吉津村複合施設設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例
- 日程第4 議案第23号 令和6年度鳥取県西伯郡日吉津村一般会計補正予算（第1回）
- 日程第5 議案第24号 令和6年度鳥取県西伯郡日吉津村国民健康保険事業勘定特別会計補正予算（第1回）
-

本日の会議に付した事件

- 日程第1 承認第1号 専決処分の承認を求めることについて（日吉津村税条例の一部を改正する条例）
- 日程第2 承認第2号 専決処分の承認を求めることについて（日吉津村国民健康保険税条例の一部を改正する条例）
- 日程第3 議案第22号 日吉津村複合施設設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例
- 日程第4 議案第23号 令和6年度鳥取県西伯郡日吉津村一般会計補正予算（第1回）
- 日程第5 議案第24号 令和6年度鳥取県西伯郡日吉津村国民健康保険事業勘定特別会計補正予算（第1回）
-

出席議員（10名）

1番 齊田光門	2番 加藤修
3番 江田加代	4番 長谷川康弘
5番 前田昇	6番 石原浩明
7番 河の中博子	8番 橋井満義

欠席議員（なし）

欠 員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長 ..... 里 英 樹 書記 ..... 森 下 瞳

説明のため出席した者の職氏名

村長 ..... 中 田 達 彦 総務課長 ..... 小 原 義 人
 総合政策課長 ..... 大 武 浩 住民課長 ..... 矢 野 孝 志
 福祉保健課長 ..... 橋 田 和 久 建設産業課長 ..... 福 井 真 一
 教育長 ..... 井 田 博 之 教育次長 ..... 横 田 威 開
 会計管理者 ..... 景 山 美 穂

午前9時00分開議

○議長（山路 有君） 皆さん、おはようございます。

ただいまから令和6年6月第2回定例会本会議2日目、議案質疑を開催します。

早速ですが、開会前に議案質疑について、二、三注意を申し上げ、開催したいと思います。

議員各位も御存じのとおり、標準町村議会会議規則同委員会条例で定めているところとして、1点目として、同一の議案について1議員3回を超えることはできないとしています。ただし、議長の許可を得たときはこの限りでないと定めております。2点目として、あくまでも上程議案についての疑問点を問う場であり、よって、個人の意見、要望等を述べることはできないと定めております。この場合の意見は、討論の段階で述べる賛成、反対の意見となります。しかしながら、個人の意見を述べないと質疑の意味をなさないようなものまで禁止しているものではありません。

以上が質疑をする場合、特に注意するところであります。決して議員各位の質疑、発言を制限するものではないことも御理解いただきたいと思っております。なお、個人意見による質疑に入られた場合、その判断は議長が行います。また、質疑においては、簡潔明瞭、分かりやすくお願いいた

します。

それでは、本日の会議に入ります。

ただいまの出席議員数は10名です。定足数に達していますので、これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

日程第1 承認第1号

○議長（山路 有君） 日程第1、承認第1号、専決処分の承認を求めることについて、改正内容は、日吉津村税条例の一部を改正する条例を議題とします。

これから質疑を行います。質疑ありませんか。

江田議員。

○議員（3番 江田 加代君） 3番、江田です。まず、この定額減税の実施方法について、何か資料が膨大な字数になってますので、なかなか分かりにくいです。そこで、分かりやすくといっても何か難しいかもしれませんけれども、村民に影響の大きい定額減税の個人住民税に関わる場所などを特に詳しく教えてください。以上です。

○議長（山路 有君） 矢野住民課長。

○住民課長（矢野 孝志君） 江田議員の質問にお答えいたします。

定額減税につきましては、さきの4月の広報紙で御案内しておりまして、その内容と一致するものなんですけども、令和6年度の個人住民税の所得割額に対して定額減税がかかるということで、1人当たり1万円ということで、これは所得が1,805万以下の方が対象ということで、その方の控除対象配偶者、それと扶養親族、それぞれ1人当たり1万円ということになっておりますので、例えば本人さんと奥さん、それと子供さんが税の関係の扶養になっておられれば、3人分の効果がありますので、3万円の定額減税ということになります。それがルールでございますけども、それをどうやって減税していくかということになりますと、給与所得者におきましては給与からの天引きで住民税を頂いておりますので、それを6月から5月、今月から1年間分が開始になるんですけども、それを例年では12か月、12で割ったもので住民税を徴収しておりますけども、まず、6月分は徴収せずに、そこで減税を、効果を持たせて、後の7月から5月の11か月で住民税を納めていただくということで、住民税の計算の中では定額減税分を控除したもので課税になりますので、先ほど言いました本人さん、奥さん、子供さんがおる、3人世帯ですと3万円分を税額から引いたものを11か月で割って課税していくという形になります。

それから、年金所得の方については、本算定後から正しい住民税を徴収してまいりますので、10月の年金から開始ということになります。その額につきましても、年間分を出して、それから、効果のある1万円掛ける人数分を引いたものに対して課税になりますので、そこを随時徴収していくと。普通徴収は今月から開始で、年間4回ですので、年間分を出して、それをまず1期目の今月、6月分から3万円とかという効果分を引いたものの残りの額を課税していくということで、いずれも給与からの天引きですと7月分とか、年金から引く10月分、それから普通徴収の1期分から3万円が引き切れない場合は、次の月の分、次の年金の支給日、次の納期分からさらにその分を引かせていただいて対応していくという形になっております。以上です。

○議長（山路 有君） 江田議員。

○議員（3番 江田 加代君） そうしますと、年金のみの所得の場合は6月からということではないってということでしょうか。

○議長（山路 有君） 矢野住民課長。

○住民課長（矢野 孝志君） 江田議員の質問にお答えいたします。

年金の方につきましては、前年の住民税を基にして、4月、6月、8月は仮徴収という形で、その税金が入るだろうということで納めていただきますので、そこには対象になってまいりませんで、そこで徴収した金額と、あと、10月以降の金額、年間分を出して、要は8月までに徴収した部分を引いて、残りの分を10月以降に課税になっていくということで、10月以降で定額減税分の効果が出てくるということでございます。以上です。

○議長（山路 有君） 江田議員。

○議員（3番 江田 加代君） もう一つですけれども、個人住民税が所得割の部分がなくて、何ですか、ない場合ということは、住民税がゼロっていいですかね。そういった人たちは、今の話聞いてますと、税金の減免じゃなくて給付金という形で1万円が給付されるっていいですかね。

○議長（山路 有君） 矢野住民課長。

○住民課長（矢野 孝志君） 江田議員の質問にお答えいたします。

おっしゃられるとおり、所得割のない方は給付という形になりまして、均等割部分の5,500円っていうのがありますけど、それはそのまま住民税として徴収しますけども、その方に対しては給付という形で効果が出てくるというものでございます。以上です。

○議長（山路 有君） ほかにございませんか。

〔質疑なし〕

○議長（山路 有君） ないようですので、以上で承認第1号の質疑を終わります。

日程第2 承認第2号

○議長（山路 有君） 日程第2、承認第2号、専決処分の承認を求めることについて、改正内容は、日吉津村国民健康保険税条例の一部を改正する条例を議題とします。

これから質疑を行います。質疑ありませんか。

江田議員。

○議員（3番 江田 加代君） 3番、江田です。まず、説明資料を見ますと、後期高齢者支援金についてですけれども、22万から24万に引き上げることについて、どれくらいの数の方が影響があるのか。

それから、2割、5割軽減が拡充されるわけですけど、対象者がどれくらいなのか、分かれば教えてください。

○議長（山路 有君） 矢野住民課長。

○住民課長（矢野 孝志君） 江田議員の質問にお答えいたします。

このたびの改正は後期高齢者支援金分でございますが、限度額の引上げということで22万から24万になるものでございますが、試算の中では、限度額22万の場合と24万の場合、いずれも3世帯ということで、変更はありません。

もう一つの5割軽減と2割軽減につきまして、条例改正前は5割軽減が46世帯、それに対しまして、改正後は47世帯ということで、1世帯プラスになります。同様に、2割軽減は、改正前が35世帯だったものが改正後は36世帯ということで、これも1世帯増えるということが試算で出ております。以上です。

○議長（山路 有君） 江田議員。

○議員（3番 江田 加代君） そうしますと、今、説明資料を私、見たんですけども、こちらの、条文のどこを見ればそれが載ってますか。1ページには負担限度額のことにはありますけども、2割、5割減免についてはどこのページを見たらいいですか。

○議長（山路 有君） 矢野住民課長。

○住民課長（矢野 孝志君） 江田議員の質問にお答えいたします。

限度額につきましては、1ページの2条から2ページにわたって記載がありますけども、その後の2ページの(2)、2号というところでは29万円を29万5,000円に改正しております。これが世帯の所得の計算の式の中の金額でございますが、ここが5割軽減の方に該当いたします。

それから、3号の(3)、53万5,000円が54万5,000円になってる、この部分が2割軽減の方の所得の部分の効果があるというところの規定でございます。以上です。

○議員（3番 江田 加代君） 分かりました。

○議長（山路 有君） ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山路 有君） ないようですので、以上で承認第2号の質疑を終わります。

日程第3 議案第22号

○議長（山路 有君） 日程第3、議案第22号、日吉津村複合施設設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例を議題とします。

これから質疑を行います。質疑ありませんか。

前田議員。

○議員（5番 前田 昇君） 5番、前田です。今回の条例改正につきましては、複合施設ヴィレステひえづの所管が主に教育委員会になるということで、より広く生涯学習の拠点としての役割が増すんだということで期待をしております。

その上で、従来の、複合施設と言ってきておりますが、この条例の名称ですが、単に複合施設という名称ですね、特にこだわるものではないんですが、ミライトひえづのほうは子育て複合施設というような表現で条例があって、ここは単に複合施設ってということなんですが、この辺りの名称の見直しはそもそも必要ないのかっていうことをちょっと感じたものですから、その点が1点です。

それから、3点ほどありますが、2点目は、教育委員会がここに入ることによって、現状で職員の方が事務室に現在が何名で、結果的に何人の方がそこで要するに執務をされることになるのか、その辺について、現段階で分かる範囲で結構ですので、御答弁いただきたいと思います。

それから、3つ目ですが、改めてヴィレステひえづが生涯学習の拠点としてなるに当たって、教育委員会が所管することによって、要するに加えていきたいものといいますか、これまでの取組をより教育的な機能を高めるといって、教育委員会としてはどのように今後の方針を考えられているのか、その3点をお願いしたいと思います。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。私のほうから、まず、条例の名称の御質問がありました。こちらにつきましては、議員からもありましたように、当該条例につきましては日吉津村

複合施設の設置管理条例ということでありまして、ミライトひえづにつきましては複合型子育て拠点施設の設置管理という条例になっておりますので、一定のその部分ですみ分けができていう観点から、このたび名称の改正は必要ないだろうという判断で、現状のとおりということでいかせていただくということで、ここは改正なしということにしています。

あと、執務室の人数等の御質問につきましては総務課長、また教育委員会のほうから答弁をさせていただきます。以上でございます。

○議長（山路 有君） 井田教育長。

○教育長（井田 博之君） 前田議員の御質問にお答えいたします。

今後の方針、新たにどんな考え方でやるかという御質問だったと思います。結論から申し上げますと、現時点、こんなことを新しくやるということを想定はしておりません。ヴィレステひえづが今まで生涯学習、社会教育に関して相応のことをきちんとやってきているということが私の考えとしては前提でありまして、これを当然、より一層進展させる。教育委員会がヴィレステのほうに一緒になるということは、村長の生涯学習、社会教育の一層の充実という狙いがございまして、それに対して、基本は先ほど言いました今相応の活動がきちんとできているということに基づき、それをどう発展させていくか、より進展させるか、村の活性化にどう寄与するかということに関しましては、7月に一緒になってから、今やっている方々の御意見をきちんと聞きながら、また、ヴィレステひえづのメンバーが受け止めている村民さんのお気持ちにどう応えようとしているか等々、いろんなことを一緒になって考える中で構築していくべきものだというふうに現時点考えておりまして、そういう意味で、何もしないということでは当然ありません。どうやっていくかっていうのは非常に大切なことだと思っておりますので、一緒になって、一つの組織として考えていきたいというふうに現時点、思っているところでございます。以上です。

○議長（山路 有君） 横田教育次長。

○教育次長（横田 威開君） 前田議員の御質問にお答えします。

2点目の質問で、人数のことについて質問がございました。現在、ヴィレステひえづ執務室の中には教育委員会の職員が2名、これは社会教育担当と社会体育の担当の2名になります。それと、コミュニティセンターの担当と、それから健診センターの担当が合わせて4名、そして、執務室には図書館司書等の図書館職員が作業できるように1つ事務机設けておりますので、現在は7名が事務室で作業しているというふうなことになります。図書館司書については6名はいるんですが、どうしても財務の関係等でやり取りが必要なときには執務室の中に入って作業を行っております。これに現在、役場2階、教育委員会におります5名が移動するというふうなことになります。

ますので、全部で12名というふうなことになります。配置等については既に相談も進めながら、実際のあの空間の中でどのようにやっていけばいいかというふうなことは検討は進めているところですので。以上です。

○議長（山路 有君） 前田議員。

○議員（5番 前田 昇君） 教育長に答弁いただいたことについてです。この条例の中にも、運営審議会を教育委員会が所管するというふうなことでありまして、従来から運営審議会には主に教育委員会につながる関係の方が多いわけですが、今、教育長の答弁もあったように、より広くヴィレステを村民の方が利用していただくという観点でいえば、やっぱり全体の利用方法と併せて、要するにニーズの掘り起こしですね。ヴィレステでこういうグループ、あるいはこういう活動をすれば暮らしが豊かになりますよっっちゃうこと、従来もやっているというものの、やっぱり教育委員会の情報量っっちゃうのは圧倒的に多いと思いますんで、そういった観点で、運営審議会に対してどのように教育委員会としてアプローチされるかということ、補足を1点お願いしたいと思います。

それから、最後の点につきまして、事務室が狭くなるということはいろいろ工夫されるんだと思いますが、漏れ聞きますと、印刷機を主に置いておりますボランティア室ですね、あそこに今回の補正でも一部パーティションを置いて、事務室なり、何か書庫でしょうかね、そういった感じで利用するというのを伺っておりますが、ここでどうっていうわけではないですが、もともとボランティア室という名称からいうと、現状の印刷室となっていますのは少しどうかなというふうに思っておりますので、村民の方が利用される上で、結局は役場のスペースが広がってボランティア室が狭くなるというのはちょっといかがなものかなと思っておりますんで、その辺の工夫をどのようにしていただけるかということ、以上、2点お願いしたいと思います。

○議長（山路 有君） 小原総務課長。

○総務課長（小原 義人君） 前田議員の御質問にお答えします。

2点目の、まず、パーティションの関係ですけれども、現在、ボランティア室を1室使わせてもらって、印刷機等を利用させていただいております。現実的にそういうような使い方ですので、何かあそこで会議をしてというような感じの利用ではないというふうに把握しております。それで、あそこを半分よりちょっと奥側、今もパネルを置かせてもらってますけども、あそこをきっちとした鍵のつくパーティションをつけて、奥に役場関係の書類を置かせていただくスペースをつくらせていただきたいなと思っております。印刷機は今の状態からちょっと前に出して、そのままの活用ができるというふうな形でさせていただきたい。これは、ちょっと事務室が狭くなる

ことに対する対応ということになります。

それで、狭くなるということに関しましては、やはりまだほかの、例えば健診室ですとか、そういう部屋がございますので、もし御利用の際があれば、そちらのほうも活用していただくような形で考えていきたいなというふうに思っておりますので、御理解をいただけたらなというふうに思っております。

それから、運営審議会のほうにつきましては、これまで村が管理するということでしたので、総務課のほうが事務局となって運営をしてまいりました。このたび教育委員会が来られて、業務は教育委員会が行っていただくということになりましたので、やはりその業務を理解している方が運営審議会もしっかり見ていただいたほうが実態に合ってるだろうということで、運営審議会ということを明記して、それを教育委員会にお願いしたということでございます。

今、運営審議会のほうは委員が15名ということで、それぞれの図書館関係、それから公民館関係、健康増進関係から一応5名ずつの委員さんに出させていただいて、様々な自分の経験から来る御意見、御提言をいただいているということでございます。私が言うのもあれですけども、これから教育委員会が事務局を持たれることによって、さらに教育委員会からの視点、それで皆さんの意見をしっかり吸い上げて実際の業務につなげていけるんじゃないかなというふうなことで考えておりますので、そのような形で持っていけたらいいなというふうに考えております。

ちょっと答えにならないかもしれませんが、以上でございます。

○議長（山路 有君） 井田教育長。

○教育長（井田 博之君） 運営審議会についての前田議員の御質問にお答えします。

ヴィレステひえづの生涯学習、学習の場をつくる社会教育の視点から運営審議会でもどう考えていくのかということですが、いろんな村のイベントやら行事の実行委員会等々ございます。その実行委員会とはまた別に、村民が自ら皆さんのニーズに基づいて主体的に活動していけるように、そういうコミュニティ活動、大きく言うとそうなるわけですけど、サークル活動的なものであるとか、最適な村民さんの活動を支援していきたいというのが一番私の思いでございます、そのためにどんな活動をすべきか、どういうメンバーが要るじゃないとか、この施設をこういうふうに使ったらよりよくなるじゃないとか、前田議員おっしゃる利用者のニーズ、村民のニーズが集まってくる中で、具体的にこうこう、こういうふうな活動というふうなスタイルに昇華していくといいなというふうに思ってます、運営審議会でもそんな願いをお話しして、いろんなアイデアをお聞きする、お伺いする、その中で、やっぱり主体的な話合いが大事だと思いますけども、一緒になって考えるということだと思います。このことは運営審議会に限らず、教育委

員会としてはいろんな団体の方とか、例えばコミュニティ・スクールの学校運営協議会とかでもお話してるところですけども、村のいろんなまとまった組織からいろんな御意見、アイデアをいただけたらなと思っているとこでございます。そんな気持ちで運営審議会に参加していきたいというふうに考えております。以上です。

○議長（山路 有君） 前田議員。

○議員（5番 前田 昇君） 基本的に私も同意見であります。3点目ですけど、ちょっと補足させていただきますと、この運営審議会も、例えば図書館と生涯学習と健康とそれぞれ出ておられますけど、例えば、じゃあ、今後の図書館の運営とか村民の図書館利用についてどう考えるかっていうことでいうと、かなりそれに突っ込んだ情報提供をしないと、一般の、我々も含めて、自分のところだけ見てもなかなか分からないし、これからの図書館運営はこういう実践もありますよっていうことをぜひ、まずはしっかり情報提供いただいて、ああ、それなら自分も関わりたいなというふうな、健康も一緒だと思いますけど、そういうふうな形の審議なり、あるいは学習ニーズ調査のようなものをこの際しっかりやっぱりやっぱりいただいて掘り起こしていくっていうことがないと、要望を受けるといっても、なかなかそうはならない部分があって、あと、以前から言っておりますが、ふるさと学習ですね、日吉津の歴史をみんなで勉強しようみたいなものっていうのは、かなり潜在的にニーズはあると思ってるんですけども、そういう場がないと、皆さん、自分からどうっていうことはなかなかないので、長くなりました、そういった点をぜひ教育委員会で進めていただきたいと思います。その辺について一言また答弁をいただきたいと思います。

○議長（山路 有君） 井田教育長。

○教育長（井田 博之君） 前田議員の御質問にお答えします。

必要な情報提供をきちんとしたほうがいいというお話でございました。そのように努めてまいりたいというふうに思います。

最後におっしゃいましたふるさと学習等々の生涯学習の場をきちんと設定してはどうかということでございますが、御存じのとおり、現在ふるさと読本を作成中ございまして、これは村民の皆様にもぜひ見ていただきたい。それを基にということではないんですが、おっしゃるように、新しく引っ越してこられた、転入してこられた方々に何らかの形で日吉津の歴史を認識していただくことは必要だなというふうに考えておまして、そういうサークルなり教室なりを設定するかどうかは別としまして、ぜひ日吉津の歴史、良さ、特徴について知っていただけるような取組はしていきたいというふうに考えております。以上です。

○議長（山路 有君） ほかに質疑ありませんか。

齊田議員。

○議員（1番 齊田 光門君） 1番、齊田です。教育委員会が移動するということに関しまして、直接はなんですけど、例えば日曜日にヴィレステひえづホールを使用する場合、前もって平日に客席を移動する、出す場合、平日に教えますので、ボタンを押せばそれは移動してセッティングはできると思いますけど、例えば事故があったりとか機械を壊したりとかいうことも発生するんじゃないかと思います。できましたら、日曜日に機械を扱う人を、例えば休日出勤とか時間外を、出ていただくのも大変だと思いますけど、例えばもうセッティングしていただいて、鍵を閉めて帰ると。で、月曜日の朝に片づけをしていただくという方法も一つあると思いますので、その辺ちょっと検討していただけたらと思います。よろしく願いいたします。以上です。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。現在の運用をどのようにしてるかっていうことを把握してないので、どういった答弁できるか分かりませんが、ちょっと現状を見まして、その中で今、上手にやりくりをして運用してるというふうに認識をしていますので、それが悪くならないように、できれば便利になるようなことができればいいかなという思いではあります。ちょっとまずは現状確認して、その対応を引き継いでいくということかなというふうに思っています。以上です。

○議員（1番 齊田 光門君） ありがとうございます。

○議長（山路 有君） よろしいですか。

ほかにございませんか。

橋井議員。

○議員（8番 橋井 満義君） 8番、橋井です。若干、二、三点お聞きして確認をしたいと思います。今回は教育委員会がヴィレステひえづに移動するということですが、今現在ヴィレステには7名、そして、教育委員会から5名が行って12名になるということでありましたが、この5名の方はどこの部屋にどう移動されるのかというのを、ちょっと再度確認をしたいと思います。

それから、この改正後の5条の本文のところの略の部分で、この5条の第1項4号、略ですけども、このたびは(1)から(3)及び5号の業務に当たっては教育委員会が行うものとなるわけですが、この今の現状の(4)の略となっているところは、一体これはどういう条文だったんでしょうか。それ、ちょっとお聞きしたいと思います。

それと、今現在では総務課の管轄であったり管理運営の統括されてるところの部分もあると思いますが、今後はこれの全体的な職員の統括なり職務の運営は誰がどう責任を持って行ってやられるのか。といいますのは、キッチンスタジオは福祉保健課の栄養士が出向いてやったりということがやってるんじゃないかなと思いますし、それから、ステージや会議室の云々のあれは、直接あそこのカウンターで申し込みされてたのかな、その辺がちょっと私も把握をしておりませんので、今後のそういった統括、そして人事、今後の運用の在り方というのはどのようにされていくのか、ちょっとお聞きしたいと思います。以上です。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。まず、執務室の配置ですけれども、主に今、ヴィレステひえづの職員が、最初7名、6名いるというふうに御説明申し上げましたが、そこの配置をちょっとずらして、プラス5名も入れるようにということで今計画をしているところであります。

それから、次の質問で5条の第4号、こちら健康増進に係ることということでもあります。後の質問とも併せての答弁になるかと思えますけれども、5条のほうで、ヴィレステひえづは村長が管理しという条文が頭にあるわけですけれども、こちらについては変更ございませんので、これまで、今、引き続き保健師の配置というのもあるものでありますし、先ほどおっしゃいましたキッチンスタジオ等々の利用につきましても、これまでと同様な扱いをしていくということで考えています。その中で、教育委員会の事務局が現地に行くことで社会教育であったり生涯学習というような部分をより強めていくというようなことで考えておまして、これまでの機能は持ちながら、維持しながら、社会教育部分を增強していくというような考え方に立っておりますので、御理解をいただきたいというふうに思います。以上です。

○議長（山路 有君） 橋井議員。

○議員（8番 橋井 満義君） 今お聞きした中で答弁がありました、私がお聞きしたかったのは、場所としての確認は、現在の玄関を入った正面の受付カウンターの中の執務室の中にプラス5名が入るようにレイアウトを変えていって、そこで行っていくということは分かりました。

それから、今後の人事なり統括運営のやり方としては、保健師さんなり様々な業務があるんだけれども、それはそれなりの担当の課からの、要するに、人事権と言ったら失礼なんです、そこと教育委員会が事務所の中では併存しながら、業務命令、指示系統体系は別物であるということがここで判明したんじゃないかなと思いますが、特に保健師さんの場合には、教育委員会からの指示命令系統ではなく、同じところで執務はしてるんだけれども別個のものだよということで間違いはないんですね。その点、確認。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。保健師につきましては、福祉保健課の所属ということで引き続き運用してまいります。この職員がヴィレステひえづ、同じ執務室にいるということで、コミュニティセンターであったり、図書館であったり、あるいは健康づくりといったところでの連携がこれまでもしっかり取れているところでありますので、引き続きこの連携を深めてまいりたいというふうに考えております。以上です。

○議長（山路 有君） 橋井議員。

○議員（8番 橋井 満義君） ただいまの村長の答弁であったとおり、先ほど来、私が質問させていただいたこの第5条1項4号の略、ここの部分には、教育委員会がこの1項4号の健康増進に関わることは自分ちの仕事ではないよということが判明したわけありますので、これについては福祉保健課長の指示命令系統に基づきこれを運用していくということで間違いのないようであります。それで、それらは今後の在り方として理解をさせていただきました。

最後になりましたので、今後はここに教育委員会が引っ越しをされるということで、教育長のお気持ちを私は聞きたいなと思っておりますのは、今ここで、いつもいろんなところから御意見が出たり云々をしようと思うのは、中学生なり高校生なりの出会いストリートでの自主勉強の在り方についてが様々な場面でやはり出てきております。それで、今まで7名だったんですけども、12名ということで、目の届く数が増えるわけですから、その点では今後はこれらの教育、勉強の増進について教育長から、私は一歩前に踏み込んだ今後の在り方についてありがたいお言葉を拝聴できれば幸甚だなというふうに思いますが、いかがでございましょうか。それで質疑を終わります。

○議長（山路 有君） 井田教育長。

○教育長（井田 博之君） 橋井議員の御質問にお答えしていきます。

まず最初に、訂正させていただきます。教育委員会事務局、私を含め、現在6名おります。5名ではなくて6名、今さっきちょっと言い間違いをしてました。訂正させていただきます。

どんな気持ちでいるかという御質問ですが、最初、前田議員の御質問にお答えしましたとおり、一緒になって、よりいい、より村の活性化に寄与できる公民館、コミュニティセンター、図書館等々として機能できるように、組織一体となって進めていきたいというふうに考えております。

最後の子供たちの学習スペースということに関しましては、今までずっといろんな論議をしていただきまして、なおかつ現在も試行的に図書館の中で勉強できるようにということも進めてまいりまして、それらの状況をまた7月、参りましてから集約をしまして考えていきたいと思いま

すが、どの時間帯にどうしたらいいのかとか、何ていいますか、全体こうだよじゃなくて、部分的に柔軟にやったらどうかとかいうようなことも含めて検討していく必要があるなと思います。御質問に対するお答えといたしましては、前向きに検討してまいりたいと思っておりますということになろうかと思いますが、また御意見等いただけたらというふうに思います。ありがとうございました。

○議長（山路 有君） ほかにございませんか。

石原議員。

○議員（6番 石原 浩明君） 6番、石原です。ヴィレステの部屋の使用料について質問します。現在、申請はヴィレステの受付でやればいいですけど、利用料は平日に役場の会計課のほうに行って払うようになってるんですけど、これは利用される方にとってはちょっと不便という声が出ていると思うんですが、この教育委員会が入るということを機に、利用料もヴィレステで支払いするということができないんでしょうか。

○議長（山路 有君） 小原総務課長。

○総務課長（小原 義人君） 石原議員の御質問にお答えします。

今、御意見をいただきました。そういった御意見もいただいておりますので、またこれからちょっと検討して、前向きにしたいと思っております。以上です。

○議長（山路 有君） よろしいですか。

石原議員。

○議員（6番 石原 浩明君） ぜひお願いします。あるいはコンビニ等で払えるようにしてもらえると助かると思いますので、よろしくお願いします。

○議長（山路 有君） 答弁はよろしいですか。

○議員（6番 石原 浩明君） はい。

○議長（山路 有君） そうしますと、ほかにございませんか。

〔質疑なし〕

○議長（山路 有君） ないようですので、以上で議案第22号の質疑を終わります。

日程第4 議案第23号

○議長（山路 有君） 日程第4、議案第23号、令和6年度鳥取県西伯郡日吉津村一般会計補正予算（第1回）を議題とします。

これから質疑を行います。質疑ありませんか。

加藤議員。

○議員（２番 加藤 修君） ２番、加藤です。７ページ、地方創生支援マネージャー委託業務
８００万、これの説明をお願いいたします。

○議長（山路 有君） 大武総合政策課長。

○総合政策課長（大武 浩君） 加藤議員の御質問にお答えします。

この地方創生支援マネージャーですけれども、第三者の目で、視点で日吉津村の魅力を再発見して、その魅力の村内外への発信などを核として、地方創生の支援マネージャーを民間のほうから起用するものであります。

具体的には、シティプロモーションですね。このシティプロモーションっていいものは、地方創生とか地域経済活性化といったキーワードがあると思うんですけれども、特定の地域の魅力を発信するために行われる様々な宣伝活動を意味しております。こちらのほうを、少子高齢化ですとか東京への集中が問題視される中、地方が活力を取り戻すために積極的な情報発信が欠かせないと考えております。地域についてまず知ってもらい、興味を抱いてもらい、そしてその魅力にのめり込んでもらうことが非常に重要な意味を持ちます。こういったシティプロモーションが成功すれば、地域としての認知度アップはもちろん、ブランド力の向上効果が見込めると考えております。我々自治体にとって、こういったシティプロモーションは地域の魅力を村内外へと発信するための重要な施策であると考えておまして、繰り返しになりますが、民間からの地方創生支援マネージャーのお力をお借りするものでございます。以上です。

○議長（山路 有君） 加藤議員。

○議員（２番 加藤 修君） この事業については、半分国庫の補助金が出てるわけですが、今現在進んでいる海浜エリア活性化事業の当初予算で１、６５０万ついてるわけですが、これとの絡みはどうか。

○議長（山路 有君） 大武総合政策課長。

○総合政策課長（大武 浩君） 加藤議員からの質問にお答えします。

現在ついております海浜魅力向上のためのアドバイザー業務には、その委託費として当初予算で組んでおりましたが、この交付金を取るときに、地方創生全体のマネジメントをするということで、地方創生の支援マネージャーについても申請書のほうにちょっと記載しておりましたので、そういった部分では、海浜運動公園だけではなくて、特産品をPRして地元を盛り上げていくという意味で、大きな地方創生の中の取組の一つです。以上です。

○議長（山路 有君） 加藤議員。

○議員（２番 加藤 修君） ５月２７日に決まったという報告を受けてますが、これについてちょっと報告を願います。

○議長（山路 有君） 大武総合政策課長。

○総合政策課長（大武 浩君） ５月２７日には、海浜魅力向上のアドバイザー業務に係るプロポーザルの選定委員会のほう、この決定をもちまして、優先交渉権を持つ事業者１社に決定いたしました。以上です。

○議長（山路 有君） ほかにございませんか。

河中議員。

○議員（７番 河中 博子君） ７番、河中です。先ほどと同じ項目になります。第２款総務費の第５目企画費、８００万円の補正なんですが、この８００万円は人件費かどうか。

もう１点、この支援マネージャーというのはもう決定しておられますか、どうですか。

この２点、お尋ねします。

○議長（山路 有君） 大武総合政策課長。

○総合政策課長（大武 浩君） 河中議員の御質問にお答えいたします。

まず、１点目の人件費かどうかなんですけれども、これは想定としましては、民間事業者の企業のほうに委託費としてお支払いしまして、その事業者からこういった業務ができる方を派遣していただくという形になります。

そして、２点目の質問ですけれども、まだこの支援マネージャーについては、これから採用する予定ですので、決まっておりません。以上です。

○議長（山路 有君） 河中議員。

○議員（７番 河中 博子君） もう１点お尋ねします。まだということでしたけれども、例えば地域ですか、それとも全国規模のような、そういう公募ですか。その手法を教えてください。

○議長（山路 有君） 大武総合政策課長。

○総合政策課長（大武 浩君） 河中議員の御質問にお答えします。

これは全国規模で募集したいと思います。以上です。

○議員（７番 河中 博子君） 分かりました。

○議長（山路 有君） 前田議員。

○議員（５番 前田 昇君） ５番、前田です。私も同じ点についてお伺いします。

シティプロモーションという言葉、私自身も言葉としては知っております。それをイメージしたときに、例えば日吉津のホームページをリニューアルするとか、あるいは何かキャラクター

ですね、リップちゃんを全国発信するとか、そういったやり方もあるでしょうし、そうでなくて、ここに書いてあるように、海浜エリアの活性化、あるいは特産品ということで、新しい特産品をどのように売り出すとか、結局幅広いですね、一帯がね。現実、この説明書を見ましても、単にシティプロモーションをやりますというだけであって、非常に、正直言って分からないんですね。どういったものを日吉津村の中にシティプロモーションによって磨きをかけていくのかっていうのが、イメージも分からないんですけども、そういった点では、これにもう少し、何ていいますかね、イメージ図みたいなものがないとなかなか判断がしづらいというのが率直な気持ちです。

その上で幾つか伺いますと、先ほど同僚議員のあった、いわゆるマネージャーを全国からということでしたが、これは委託先の会社から派遣をもらうということとは違うんですか。800万の中で派遣を受け入れるということではないのかと思います。もしそうだとしたら、派遣を受け入れた場合に、その人に対する指示命令っていうのは、会社ですから、役場のほうが、課長があれやれ、これやれっていうことはなかなか言いづらい、連携を図りながらやるっていうことなんです。その派遣を受けた方については、例えば週何時間とかの勤務をイメージされてるとか、800万の見積りがあると思うんで、そういった点では、どの程度、言わば役場の中でその人が取り組むのかっていうことを、その辺をもう少し詳しくお聞きしたいなと思います。

それから、もう一つは、半分は地方創生の補助金があるということなんです、これは何年やるつもりなんです。1年では終わらない仕事だと思ってるんですよ。これが継続的に、イメージで、例えば3年は確実にやる必要があるとか、その辺の情報があれば、それはぜひお示しいただく必要があるんじゃないかなと思います。

その上で、地方創生に関する取組ですので、従来から、今、地方創生会議ですかね、官民とかマスコミとか、そういったところで何かこれに取り組むべき、あるいは日吉津村としてはここをこう取り組むべきというような議論はされてきたのか。同様に、役場の職員の中でシティプロモーションについての論議はされてきたのか、その辺を御答弁いただきたいと思います。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。この委託の内容について、御質問がまずありました。こちらにつきましては、役場職員がこのシティプロモーションやホームページ等々でPRを行っているところではあるんですが、やはり第三者的な視点で、外部から見て、日吉津村のいいところっていうのをもう一度見直してみるっていうことも必要なんじゃないかなというふうに思っているところであります。そういった意味で、特産品、今あるものをさらにブラッシュアップをし

たりとか、あるいは、外部から見たらこれもいいんじゃないかみたいなことを見つけてもらって、それを磨き上げたり、外に発信をしていくっていうのをやっていただきたいなというふうに思っています。

あわせて、海浜エリアのお話も先ほど出ておりましたけれども、こういったところもぜひ外に発信をしていくというのも大切でありますので、そういったことも含めて、この日吉津村のPRをぜひやっていただきたいなというふうに考えているところであります。

それから、委託料ということでもありますので、内容としては村の事業を委託するということになりますので、派遣ということで、その辺り、契約上の調整は必要になるかと思えますけれども、基本的にはこの日吉津村の思いで動いていただくというようなことを想定をしています。

それから、事業年数ですけれども、地方創生の推進交付金、デジ園って今言いますけど、デジタル田園都市国家構想の推進交付金っていう交付金ですけれども、今そちらの申請が3年の計画になっていますので、3年間受入れをして、その期間、特に力を入れて進めていきたいというふうに考えています。

それから、最後に、地方創生の推進会議等々での御意見ですけれども、これ言われるのが、非常に、もっと発信をしたらいいのによっていうのを結構どの委員さんも口をそろえて言われるところでありまして、やっぱりホームページであったり、SNSであったり、もっと活用をして、インスタ、SNS映えをするようなスポットをつくってはどうかと、毎回こういった御意見いただいて、職員も一生懸命努力をしているところではあるんですけれども、そういったところに少し外の、何ていうか、刺激をいただきたいなという気持ちも持っているところでありまして、職員の中でも話をしてもらって、どういった人がいいんだろかねっていう話はしたところですが、やっぱりこういった発信とか、そういったところで少し、何ていうか、そういう知恵とか、お借りできればなというような話をしているところでもあります。以上であります。（「勤務時間とか」と呼ぶ者あり）

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 失礼しました。勤務時間ですけれども、これもちょっと具体には契約がまだですのであれですけど、基本的には一般職員と同じような勤務時間になるのではないかなというふうに想定をしています。以上です。

○議長（山路 有君） じゃあ、2回目です。

前田議員。

○議員（5番 前田 昇君） 今、村長がシティプロモーションにかける気持ちっていうのは分

かります。それは、日吉津村のものをもっと磨きをかけるということは分かります。ただ、繰り返すようですが、結局そのことがまず職員の中に本当に、ある意味でいえば、小さな日吉津村においては、職員のいろんな人脈とか、住民の方との接点っちゃうものを抜きにはシティプロモーションはできないと思うので、大きな自治体以上に、むしろ日吉津村のそれは強みなわけですから、私が問題を感じるのは、結局、日吉津の実態の分からない、情報はたくさん持ってるけども、そういったコンサルに委託をしてしまって、職員の手を、逆に言うと、離れてしまったら、結果的に村民にとってはなかなかしっくり来ないものになっていくんじゃないかという不安を感じるんで、その点、まず職員、それから住民の方に日吉津村を本当に発信する、あるいは、もっと頑張れば日吉津村が輝くというふうな、そういう取組を並行して、あるいは前段にすべきだと思うんですが、その辺についてはどのように考えられてるかっていうことをお聞きしたいと思います。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。議員おっしゃいますように、やはり村民の皆さんの中に入って行って、その気持ちを酌み上げながら、それを施策にしたり、発信をしていくということが大事だというふうに思っていますので、その辺り、職員ももちろん一緒に入ってやる中で、そういった村民の皆さんの思いを形にしたり、発信をしていくということをぜひ一つの狙いとしてやっていきたいというふうに考えています。以上です。

○議長（山路 有君） 前田議員。

○議員（5番 前田 昇君） 言い忘れましたが、我々議員も同じだと思いますので、正直言って、ちょっとこの段階でこの事業がどうかと率直に思ってますけども、並行して、もう少し、さっき言いました、シティプロモーションに対するイメージ、あるいは現実に日吉津でどうやるのかってところの情報をしっかりいただいて、我々もそういった観点で自分たちの知恵を出し合うということをしなければ、結果的に意味がないと思いますので、そういった配慮をぜひお願いをしたいと思います。以上です。要望になってしまいました。

○議長（山路 有君） 答弁はよろしいですね。

○議員（5番 前田 昇君） はい。

○議長（山路 有君） 執行部のほうから何か答弁があったら。

中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。もちろん、ぜひお知恵をお借りしながら進めていければと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。以上です。

○議長（山路 有君） ほかにございますか。

江田議員。

○議員（3番 江田 加代君） 3番、江田です。2点について質問いたします。

まず1点目ですけれども、5ページの老人ホーム入所措置費負担金の金額は何名分で、今の措置で入所されている方の人数を教えてください。

もう1点は、教育委員会の関係で、人材育成交流事業の2万円の補正です。これに関しまして、これは小学生ですから沖縄だと思いますけれども、人材育成交流事業、むらづくりに貢献できる人材を育成するということで行われてますけれども、当初予算の資料などを参考にしてざっと計算をしてみたんですけれども、この2万円を追加すれば、トータルして、むらづくりに貢献できる人材育成ということで、この費用総額は幾らになりますでしょうか。

○議長（山路 有君） 橋田福祉保健課長。

○福祉保健課長（橋田 和久君） 江田議員の御質問にお答えいたします。

5ページの老人ホーム入所措置費負担金についてですけれども、今回補正させていただきましたのは、今年度新たに入所されました1名分の措置でございます。現在、既に入所されている方は2名おられまして、合計3名ということになります。以上です。

○議長（山路 有君） 横田教育次長。

○教育次長（横田 威開君） 江田議員の御質問にお答えします。

まず、補正予算で計上しております2万円についてですが、これは該当があった場合でっていうふうなことで、準要保護家庭で希望があったときに扶助費として負担するというものになります。これは、例えば経済的な理由等で参加することができないというふうなことをなくすために対応してきているものでございます。

それで、今、人材育成交流事業で総額がどれだけになるかっていうふうなことでございますが、当初予算等で約890万円を計上しておりますので、それに2万円がプラスされたというふうなことになります。以上です。

○議長（山路 有君） 江田議員。

○議員（3番 江田 加代君） この人材育成交流事業についての沖縄と語学研修に行かれますけれども、これに同行される職員さんに関係した費用の額を教えてください。

○議長（山路 有君） 横田教育次長。

○教育次長（横田 威開君） 江田議員の御質問にお答えします。

細かい計算をしてないので、ちょっと全体の人数割とした概算でお答えさせていただきます。といいますのが、特に移動に関わる飛行機の航空運賃が一番大きな額にはなるんですが、特に、

年齢12歳以上・以下での多少の差はありますが、そこまで大きい差ではありませんので、大体子どもと大人は同じだと考えて聞いていただければと思います。

まず、沖縄のほうですが、1人当たりにかかっている金額が大体13万円程度でございます。それから、オーストラリアについては、現在、今年度に入ってから航空料金がずっと安定せずに、幾らだっという明確なものは今非常に難しいんですが、去年のものを参考にしたところ、1人当たりが大体69万円になります。以上です。

○議長（山路 有君） 江田議員。

○議員（3番 江田 加代君） じゃあ、確認させていただきます。この同行者の予算も含まれているわけですか、人材育成交流事業、子どもたちと一緒に予算の中に。予算の説明資料にはちょっと分かりませんのでお聞きしたんですけど、例えば教育費の中に別の項目があるのかなと思ってこの質問なんですけれども、それはありませんか。

○議長（山路 有君） 横田教育次長。

○教育次長（横田 威開君） 江田議員の御質問にお答えします。

以前はこの引率と分けて整理しておりますが、負担金でというふうなことでまとめてにしようというふうなことで作業を進めまして、現在は一緒の中でやっております。以上です。

○議員（3番 江田 加代君） 分かりました。

○議長（山路 有君） ほかにございませんか。

橋井議員。

○議員（8番 橋井 満義君） 8番、橋井です。7ページ関係についてなんですが、教育委員会と地域振興課だったかいな、総合政策課の担当のこの2点について質問させていただきたいと思っています。

まず、教育委員会関係なんですが、特に今回、備品購入でパーティション、これは教育委員会が入ることによって、ヴィレステの事務室内のパーティションを新たにつくりますよということでありました。それと、今回の長期継続で、図書の部分のパソコン関係の長期継続1,762万円が計上されております。月額約30万円で5年間、1,762万、月額30万、日額約1万円、これがパソコンの長期継続が締結される案が提出されております。

それで、ここでお聞きしたいのは、先ほど来、この条例の改正の云々ということがあったんですが、例えば今後、この備品購入で、これ総務課の総務費で上がっておるんですが、このパーティションとかああいうのを直すようなことが生じた場合には、これも同じように総務課がずっとやっていかれることになるのか、はたまた教育委員会のここの備品としてこれらの事業経費を計

上されていかれるのか、パソコンに限らず、例えばプリンター、印刷機というのの管理は、今後はどういうふうに施設管理運営の云々というのが、今回のことではそこが見えてきてないので、その点についてはいかがなものでしょうか。

それから、この長期継続の5年間、月額30万円、結構いい値段で、割り算してみるのが私、好きなんで、これ、1日に1万円費やして、この図書館パソコンの運営するんですよね。その点についてはいかがな見解をお持ちなんでしょうか、これは適正なものであるのかどうかという判断をお答えいただきたい。

それと、ここで財産管理で、ヴィレステ日吉津の高圧ケーブルの更新で429万円、約430万、ここで経費が出ております。これについては、今回、教育委員会が移転することによってこれらの高圧受電の設備に負荷がかかるので仕方なくでは、言葉はあんまり適切ではないですね、これに伴ってこれらの430万円の更新工事が必要になったのかどうかを答弁。

それから、次、大武課長のところになると思いますが、先ほど来出ております企画費の中の800万、これは半分が国県支出金というよりも、これは国の総務省からの銭で半分ですね、だと思いましたが、それで、県と合わせてかどうかもかもしれません。それで若干、今回26万円ほど三角マークで削ってますよというのは、国の赤ペン先生が入ったのかどうか、それは分かりませんが、その点についてどうだったのかということ。

それから、先ほど来、言葉ではシティプロモーションということで、その言葉はあくまでもこれは事業としてのトータル的な名称の今の言葉であるんで、実際には、ここは5月27日にプロポーザルが締め切って、ここで決定をされたということで、先ほど来、加藤議員のほうからも質疑があったと思います。これは前々からこのように言っておられたんで、例えばもうこれ、5月27日に決まったのであれば、この業者さんの名前ぐらひは私どもははっきり聞いておいて、それからこの業務委託の見解を併せてやっていきたいなというふうに思いますが、その点についてはいかがでしょうか。御答弁願います。

○議長（山路 有君） 小原総務課長。

○総務課長（小原 義人君） 橋井議員の御質問にお答えします。

まず、備品購入のパーティションの関係ですけれども、パーティションの中身につきましては、先ほど答弁させていただきました、ボランティア室のパーティションによるものでございます。それで、今後の考え方ですけれども、ヴィレステの中の維持管理ですとか、保守とか、これにつきましては、これまでも教育費に組んでやっていただいておりますので、それはそのままの形でさせていただきたいなというふうに思っております。ただ、建物の例えば大きな修繕ですとか、

改築みたいにかかるようなものになりますと、総務課のほうで責任を持ってやっていきたいなというふうに考えてるところでございます。

それで、あともう1点、高圧ケーブルの関係ですけれども、これが移転に伴うものかということでありましたが、これは移転とは全く関係がございませんで、これは、ヴィレステの建設当初に入れた高圧ケーブルと同様のものが全国のあちこちでちょっと絶縁低下とかによりまして地絡停電というのが頻発しているということがありました。それで、中国電力のほうから、これはちょっと調査したほうがいいですよということがございまして、急遽、この3月に調査したところ、やはりうちのほうもちょっと要注意だよという判定をいただきましたので、急遽、こちらのほうで更新を予定をしたものでございます。以上でございます。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 私のほうから地方創生の関係で答弁を申し上げさせていただきたいと思っております。

まず、国からの交付金ということでありますけれども、これ、内閣府の補助事業でありますデジタル田園都市国家構想の推進交付金ということで、内閣府のほうから2分の1が交付になるものであります。財源振替がぼつぼつあるところでありまして、これ、同じように申請をしていたんですけれども、通らなかったという部分があって、その辺りは減額で財源を変更させていただいているところがありますので、御理解をいただければというふうに思います。

それから、地方創生の支援マネージャーの委託業務と、あと、5月27日に選考を行いました海浜エリアの魅力化の事業、これ、別の事業になりますので、切り分けて御理解をいただければというふうに思っています。

なお、5月27日に行いました海浜エリアの魅力化の支援業務、今、優先交渉権者ということでありますけれども、株式会社ローカルファースト研究所というところが、今、その優先交渉権者ということに決定をしていますので、そことこれから、現在、契約の交渉をしているというような状況であります。以上であります。

○議長（山路 有君） 横田教育次長。

○教育次長（横田 威開君） 橋井議員の御質問にお答えします。

ただいま報告第7号の長期継続契約にも関連しまして、ヴィレステひえづ図書館のパソコン賃借料のことについて質問がございました。鳥取県内では、大きく図書館システムは2種類ございまして、本村で導入しているものについては、比較的小型図書館のシステムかなというふうなところで、日吉津の図書館と小学校の図書館も同じシステムを使っておりまして、これは連動して

おります。

それで、今回、リース期間が切れたために新たなというふうなところでこれを継続して行うものですが、今、この金額についてどうかということですが、例えばもう一種類あるものに替えたときには、初期投資額もかなり莫大な金額になりまして、それはちょっと現実的ではないというふうな状況等は確認しております。

また、それに伴いました、現在あるシステムを全部変えていくっていうふうなことはかなり困難な作業等にもなりますので、今のシステムの中でバージョンアップ等でよりよくなっていていく状況にはありますので、引き続き体制を整備していくものであります。以上です。

○議長（山路 有君） 橋井議員。

○議員（8番 橋井 満義君） 8番、橋井です。先ほど来のお話を整理していきますけども、この教育委員会についての部分で、まず、このヴィレステの高圧ケーブルの更新で430万ということなんですが、これは要するに、ケーブルが駄目だということでこれをせないけん。例えばこれ、こういうものについての保険対象には、こういうのってならないんですかね。そんなに建ってまだ時間はたっていないような気がするんですけども、瑕疵責任なり云々ということが、ここは話として持っていきても大丈夫じゃないかなというふうに思いますけども。最近ではもう建物建てても10年間ぐらいは瑕疵責任保証の云々というのがたしかなくちゃ駄目だったと思いますけども。その点について、今後の対応は、この430万に対しての対応の考え方というのは一つお伺いしておきたいというふうに思います。教育委員会の部分についてはそこで終わるときです。

次、企画費の中の、先ほど来ようやく判明をしましたのは、5月27日にプロポーザルがたしか5社とか6社の云々ということ、何か最初にあったような気がしましたが、ここで決まったのが、今、会社名が出たのは、ローカルファーストという名前が出てまいりました。これは、この以前から、去年からずっとやってあって、先ほど来一千何百万というのを去年来からずっと費やしてきて、そこの会社がこのローカルファースト研究所だったと思います。これは渋谷だったかな、どこだったかな、ちょっと忘れましたが、東京にある会社です。これ、政府系のこういう総務省なり云々の、自治省だったかな、何かこういうところに大変深く入り込んで、全国的にも展開されてる業者さんで、女性の社長のやり手の方だったなというふうに、私はホームページを見たときに、昨年来から感じておったところであります。

ちなみに、このローカルファーストに今回決定をしたということであるようですが、他社の、このローカルファーストが入るとるんだったら、うち、やめておきますとか云々という、どういういきさつのスタイルでこの会社が決定されたのか、その点だけお聞きしておきたいというふ

うに思います。

○議長（山路 有君） 大武総合政策課長。

○総合政策課長（大武 浩君） 橋井議員からの御質問にお答えします。

こういった経緯でローカルファースト研究所に選定されたかということですが、選定委員会を5月27日に開催しまして、そこで選定委員3名が出席して審査、業務提案のプレゼンをウェブで見ながら採点させてもらいました。今回、残念ながら、その1社しか応募がありませんでしたので、高得点ではありましたが、ホームページにも公開しておりますが、ローカルファースト研究所に決定したものでございます。以上です。

○議長（山路 有君） 小原総務課長。

○総務課長（小原 義人君） 橋井議員の御質問にお答えします。

高圧ケーブルに係る御質問ですけれども、議員おっしゃいますように、これはリコールの対象じゃないかということで我々どもも考えたんですけれども、これ、国が方針を出しております、これは販売メーカーの瑕疵ではないということで国が言っております、リコール対象外だということで、中国電力のほうからも工事費に対する補助金はないよということでございます。以上です。

○議長（山路 有君） 橋井議員。

○議員（8番 橋井 満義君） 8番、橋井です。あんまり長くなってもいけませんので。あと、ヴィレステのほうはそういうことであるということで、ちょっと残念だなと思っておるところがあります。これについて、言ってもどうしようもないものなら、しゃあないなと思います。

それで、最後には、先ほどの地方創生支援マネージャー委託業務の800万というのがあるんですが、ここで国のほうから400、それから村の自前の一般財源から400ということで、フィフティ・フィフティという財布の出どころになってくるんですが、この業務の委託で先ほど来はっきり釈然としなかったのは、このローカルファースト研究所からうちのほうに職員さんなり、そこの事業者から常勤で派遣をされるものなのか、それとも、不定期で来訪をされて、業務をある程度そこでこなしていかれる、いわゆる非常駐タイプ、それか、全く本社といたしましうか、東京のほうなりどっかでお仕事をされて、それでこちらのほうからの申出に応じて来訪されるのか。その3つの方法の中で、今のところどういうふうにされておるのかという、このぐらいは多分詰めておられると思います。その3点のうちどれなのか。

それと、もう一つ。これで、今回ここに、ローカルファーストに、おおむねのプランはある程度今回これで決定されたので、おおむねの計画図、パースペクティブなり云々というプランニン

グの計画図なり云々は多分出てくると思います、私としては、私が発注する場合を考えても。それに大方基づいたものを、雲をつかむような話ではいけませんので、将来的にここに投資をするべきお金の目算というものは、村のほうからある程度はそこで逆にプレゼンをして、やはり事業費として、これは5億ぐらいまででやっぱり止めとかなないと駄目だとか、よその事例もあることでしょうか、その点ではいかがお考えなんでしょうか。一遍そこを聞いとかなないと、20億、30億のものをうちのほうができる準備も、できる云々も資金力の云々もないし、今はやりのクラウドファンディングでそこまでやるのかなということもあるし、その点でお考えになっておられることは、ちょっとそうかんでもよろしいので、考え方をお聞きしたいというふうに思います。以上です。

○議長（山路 有君） 中田村長。

○村長（中田 達彦君） 村長でございます。まず、ローカルファースト研究所が優先交渉権者で決まったというのは、当初予算で1,650万だったですかね、認めていただいております、海浜エリアの魅力化の支援というところで決まったわけでありまして、今回の委託料の地方創生支援マネージャーっていうのはまた別の事業でありますので、そこは御理解をいただければと思います。

それと、あと、プランニングのお話が出ました。このたび、5月27日にプレゼンをしてもらって、優先交渉権者で決まっているという段階でありますけども、今後、実際にそこに海浜エリアの活性化、海浜運動公園のリニューアルに参加してくれる事業者を今後実際に募っていくというような段階になっていきます。そこに対してフォローしてもらおうというのが、今、優先交渉が決まったという事業でありますので、まだそのプランについては、これから今後提案をいただきながら考えていくということになっていきます。あくまでも海浜エリアの活性化計画というのを昨年の3月につくっていますので、村民の皆様から意見を聞きながらつくったもの、これをベースにしながら、もちろん提案する事業者もそれを念頭に置きながらプランの提案をしていくというふうに想定をしていますので、プランについては、その後にもたお示しをしながら、御意見をいただきながら進めていくということになろうかと思っています。よって、どの程度の、今、改修になるかということで、費用につきましては、現段階では幾らと申し上げることができないというのが現状であります。以上です。

○議長（山路 有君） ほかにございませんか。

齊田議員。

○議員（1番 齊田 光門君） 1番、齊田でございます。10ページのイネカメムシ防除対策支

援事業について述べさせていただきます。報道でもテレビ、いろいろ言われております。温暖化により、今年はカメムシが異常発生するということを聞いておりますが、日吉津村内で、昨年、イネカメムシの被害があったのか、分かる範囲内で教えていただけますでしょうか。

○議長（山路 有君） 福井建設産業課長。

○建設産業課長（福井 真一君） 齊田議員の御質問にお答えいたします。

被害があったかどうかということにつきましては、被害あったようです。具体的な数量等については把握しておりませんが、今回、県の補助事業、急遽、補正で上げさせていただいた地域は、前年にカメムシの被害が認められた地域のみとなっておりますので、本村も認められておりますので、そういう経過でございます。以上です。

○議長（山路 有君） 齊田議員。

○議員（1番 齊田 光門君） 補助金は、正直言いまして、昨年、農業やってます米作りの方は、本当に暑かったです。暑いせいで米の粒は大きくならない、ほとんど2等米でした。1等米、ほとんど僅かしかないと思います。今年、カメムシもなんですけど、補助金は、市町村を越えて営農している方は、市町村が作成する防除計画に基づき、所在市町村の事業とすることも可能であると明記してありますが、正直言いまして、2等米で、イネカメムシがつかましたら、ほとんどもう稲、アウトということもあり得ます。そういうことも含めまして、被害拡大の場合には、国の助成、あとは米子市、それと農協も含めて検討していただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。以上です。

○議長（山路 有君） 答弁要りますか。要望でいいですか。

福井建設産業課長。

○建設産業課長（福井 真一君） 齊田議員の御質問にお答えいたします。

まず、区域ですね、この事業は属地となっております。ですので、日吉津村の地内で、例えばよその自治体から来ていただいて、水稻の栽培をしていただいている方に対しても出ます。逆に、米子市のほうに出向いて、日吉津の方が水稻栽培されている方、これについては米子市のほうから出るようになっております。ただ、現時点で、まだ急々なこの事業でございまして、詳細が詰め切れていないところもございしますので、今後、やはり米農家に対してできるだけ有利になるよう検討してまいりたいと考えております。

それと、昨年の作況ですね、2等が多かったということなんですけど、猛暑が一つの原因でもございますし、それから、このカメムシ、特に南部町あたりがすごく被害が多くて、1等がほとんどなかったってようなところもございました。ただ、日吉津村につきましては、カメムシの

被害、比較的まだ少なく、1等米比率もほかの自治体に比べれば高かった状況でございます。
やはり猛暑に対しては日常的な水管理で水温を下げたり、小まめな農作業が必要になろうかと思
いますので、その辺も含め、JAとか県とかと協議しながら営農指導、努めてまいりたいと考
えております。以上です。

○議長（山路 有君） よろしいですか。

ほかにございませんか。

〔質疑なし〕

○議長（山路 有君） ないようですので、以上で議案第23号の質疑を終わります。

日程第5 議案第24号

○議長（山路 有君） 日程第5、議案第24号、令和6年度鳥取県西伯郡日吉津村国民健康保
険事業勘定特別会計補正予算（第1回）を議題とします。

これから質疑を行います。質疑ありませんか。

江田議員。

○議員（3番 江田 加代君） 歳出の5ページをお願いします。電算処理業務委託料についてで
すが、マイナ保険証の電算処理という説明を受けました。具体的にどのような業務なのかという
ことと、このことによって日吉津村の職員の業務が増えますか。以上、お願いします。

○議長（山路 有君） 橋田福祉保健課長。

○福祉保健課長（橋田 和久君） 江田議員の御質問にお答えをいたします。

今回の電算処理業務の委託料につきましては、先ほど来説明をしておりますマイナ保険証、紙
の従来の保険証が今回の交付で最後ということになりまして、その後はまた新たな資格確認書と
いうような取扱いが発生してまいります。そのような取扱いの変更に伴うシステム改修というこ
とで計上をさせていただいているものでございます。当然システム改修や新たな様式等、定めが
必要となってまいりますので、事務量としては、一時的には増えることが予想されております。
以上です。

○議長（山路 有君） 江田議員。

○議員（3番 江田 加代君） なかなかこのマイナ保険証の利用率が全国的に上昇しないとい
うようなことですが、本村の場合の利用率ということは把握されてますでしょうか。

○議長（山路 有君） 橋田福祉保健課長。

○福祉保健課長（橋田 和久君） 江田議員の御質問にお答えをいたします。

手元のほうで把握しております数字としましては、2月現在のものが取りあえず最新のところで数字を把握しておりますが、この段階では11%の利用ということで、ただ、これは、国保の方、後期高齢者の方の利用率ということでは把握をしておりまして、社会保険の御加入の方については、現状のところではちょっと把握ができておりません。以上でございます。

○議長（山路 有君） よろしいですか。

○議員（3番 江田 加代君） はい。

○議長（山路 有君） ほかにございませんか。

橋井議員。

○議員（8番 橋井 満義君） 8番、橋井です。5ページの歳出についてちょっとお伺いをしたいと思います。人間ドックについてなんですが、今回48万補正をして、約820万という金額になっています。それで、今現在、人間ドックの申込みがこの間あったんですが、私の記憶がどうかということとはさておいて、労災病院、それから博愛病院、それから医療センターですね。医療センターはそんな前からはなかったように感じておりまして、実は今回、個人的なことで申し訳ないんですが、私、初めて医療センターに申込みをさせていただきました。

それで、何を問いたいかということをもまず先に言っとかないかので、この6月に48万の補正をされるんですよね。要するに、これは準備金としてお金が足りないよということを予想されるからこういうことになるんじゃないかなと思うんですが、それで、労災とか博愛って割と早いんですよね、夏の間を受診、検診が始まって、それで、私、医療センターの申込みをしたら、もう来年だったんですよ、早くしたら、来年の1月、早くて真ん中から終わりぐらい。そうすると、これ77万予算組んで、48万の補正をこの6月で組まなきゃいけないような予算配分にしなくてもいけるんじゃないのかな、意地の悪いこと言っちゃいけませんけど、9月でも12月でも補正組んで対応できるものじゃないかなというふうに思ったんですけども、このやはり組まざるを得なかった理由というか、根拠というか、それってどうなんでしょうか。

それと、これの前年の、今回、770万、最初の当初予算で組んでるんですけど、この予算のベースになった去年の根拠といいたいでしょうか、実績等についてはどうだったんでしょうか。それについてお伺いをしたいと思います。

○議長（山路 有君） 橋田福祉保健課長。

○福祉保健課長（橋田 和久君） 橋井議員の御質問にお答えいたします。

今回、保健事業費のほうで人間ドック等委託料ということで計上させていただいております内容としましては、役場前に昨年開院されました……（「おおやまさん」と呼ぶ者あり）大山先生、

すみません、おおやま内科クリニックさんで、実は今年度から新たに人間ドック、それと胃がん検診のほうをスタートしていただくということがはっきり決まりましたので、そちらについて、ちょっと当初予算の時期は、いつからスタートできるかということが分かっておりませんでしたので、その人間ドック10名、それから胃がん検診10名という枠を確保させていただいたので、その分の補正予算ということでございます。

また、これは国保の方についてなんですけども、一般の方ですね、後期高齢の方等の枠ということで一般会計のほうにも今回補正を上げさせていただいたところでございます。以上でございます。

○議長（山路 有君） よろしいですか。

橋井議員。

○議員（8番 橋井 満義君） 分かりました。今のを聞いて、やはり役場の前にも優秀なお医者さんが開業されて、御支援をして、村民の皆さんにも手厚い看病といいましょうか、医療を受けていただけるということで、この部分についての補正についてはよくよく分かりました。今後ともいい関係を行政と保っていただければいいなというふうに思います。

それと、もう一つは、医療センターの話在先ほどちょっとさせていただいたんですけど、この人間ドックの申込みはいいんですけども、受診の期間とかがあらかじめ何とか、多分月割りで日吉津村さん、ここ、ここ、このローテーションは病院のほうは組んであると思うんですよ。それが昔、昔と言っちゃあ失礼なんですけど、おおむね前はカレンダーで医療センターなり博愛さんなりの云々のあれの日付がある程度見れて、カレンダーの、それで頭の中で心の準備といいましょうか、ここだったら行きたいなというのんが、ある程度そこができたんですけども、今はもういきなり担当のところに電話してくださいということで、役場のほうは申込みを橋井何がしからは受けたけども、後は医療のほうからお通知が……。

○議長（山路 有君） ちょっと短くしてください。

○議員（8番 橋井 満義君） 来ますから、直接してくださいということなんです。

○議長（山路 有君） 何を聞きたいのかっていうのを。

○議員（8番 橋井 満義君） ちょっと待ってください。カレンダーでそういうのを示すことはできないかどうか。

○議長（山路 有君） 橋田福祉保健課長。

○福祉保健課長（橋田 和久君） 橋井議員の御質問にお答えいたします。

議員御指摘のとおり、以前はカレンダー等お示しした中で、実は受付のスタートの日付とい

うのを決めて、役場の庁舎で朝から受付ということで、一斉に人間ドックの申込みをさせていただいておりました。ただ、これをしますと非常に、朝 8 時半の実は受付開始なんです、それをかなり早く並べられたり、かなり長時間待つていただくようなこともございまして、申し込みされる方の利便性ですとか、あと、医療機関のほうも、御指摘のとおり、日吉津村だけではなくて、いろんな団体から人間ドック受けておられますので、その日程調整等も病院さんでされたほうが効率的であるというような状況もございまして、様々な状況を勘案した中で、今のような、事前に申込みを受けさせていただきまして、直接日程等の調整は病院さんのほうでしていただくというやり方に変更させていただいたところでございます。

御指摘のような面はあると思いますけども、おおよそのいつ頃が受けれるというのは大体分かるところではお示ししていきたいとは思っておりますので、御理解いただけたらと思います。以上です。

○議長（山路 有君） よろしいですか。

○議員（8 番 橋井 満義君） 役場では無理だということが分かりました。

○議長（山路 有君） ほかにございませんか。

〔質疑なし〕

○議長（山路 有君） ないようですので、以上で議案第 24 号の質疑を終わります。

○議長（山路 有君） 以上で本日の議事日程は全部終了しました。

次回の本会議は 6 月 9 日日曜日、午前 9 時から本議場において、日曜議会、一般質問を行います。日曜議会については、住民の皆様には、ケーブルテレビ、折り込み等でお知らせしていますが、県下でも初めての取組となります日曜議会です。多くの皆さんの傍聴をお願いするところがあります。何より、住民の皆さんに議会をより身近なものに感じていただくためにも、ぜひ傍聴をお願いするところがあります。よろしく願いいたします。

それでは、本日はこれをもって散会いたします。御苦労さまでした。

午前 10 時 45 分散会